会議結果報告書

1　議会の名称

令和 5 年度　光市自殺対策協議会

2　開催日時

令和 5 年 8 月 17 日（木）　13 時 30 分から 14 時 45 分まで

3　開催場所

あいぱーく光　いきいきホール

4　出席人数

委員 18 名中 13 名出席、事務局 9 名出席

5　公開・非公開の別

公開

6　会議の議事録（主旨）

（1） 開会

（2） 委嘱状交付

（3） 市長あいさつ（省略）

（4） 委員自己紹介（省略）

（5） 会長・副会長選出（省略）

（6） 会長あいさつ（省略）

（7） 議事

ア　議事１　自殺の現状について

資料１、資料２を用いて、「自殺総合対策大綱」の改正と光市の自殺の現状と特徴について事務局説明（省略）

【質疑応答・委員意見】

（議長）

学校の立場から意見をお願いします。

（委員）

メディア等でもよく報道されているが、長期休業明けが子どもの自殺率は大幅に上昇する。そのことは学校でも把握しているため、未然に防止する対策をしている。 今の流れとしては、一人のケースに対して大人数で課題対応することと、

個別で対応するのが２本柱である。個別最適化をいかにきめ細かに行うかが自殺対策では重要ではないかと考えている。

夏休みの課題にしても、一律に課すのではなく、その子に応じて課題を設定している。些細なことと思われるかもしれないが、課題を理由に自殺や登校渋りに繋がっている。

タブレットの活用のメリットとして、教員と子どもが常時やり取りできる。生徒が日記を書くとリアルタイムで教員は生徒の様子が把握でき、対応できる。そして最悪の結果とならないよう配慮している。

（議長）

先生の負担も増加すると思うので、配慮が必要。

イ　光市自殺対策計画の進捗状況について

光市自殺対策計画、資料３、資料４、資料５、資料６、資料７、資料８を用いて、光市自殺対策計画の概要、令和４年度の計画の進捗状況と令和５年度の活動について事務局説明（省略）

【質疑応答・委員意見】

なし

ウ　議題３　令和５年度庁内ワーキンググループ会議について

資料９を用いて、令和５年度光市庁内ワーキンググループ会議の内容について事

務局報告（省略）

【質疑応答・委員意見】

なし

エ　議事４　光市自殺対策講演会について

資料 10 を用いて令和４年度自殺対策講演会のアンケート結果と令和５年度自殺対策講演会の講師案について事務局説明（省略）

【質疑応答・委員意見】

（議長）

昨年度のオンデマンド講演について医師会で紹介したところ、自分の子どもに見せたと言われた医師もいた。ちなみに自分の息子にも見せたが、かなり感銘を受けたようで、落ち込んだ友人を励ますような活動にグループで取り組むようになった。講演会は見た人だけでなく、後から広く影響を与える重要な機会であると考える。今年度もよろしくお願いしたい。

（委員）

講演会に昨年度参加したが、改めてこのような活動の必要性を感じた。講師案についてはどちらの方についても内容が興味深い。

（委員）

人権擁護委員として、SOS ミニレターの授業で小中学生の悩み相談を受けた

り、大人の方については人権相談について対応したりしている。ただ、SOS ミニレターの重要性は高まっていることを感じており、実際子どもの自殺者数は増えておいるという現状を加味しても、子どもの自殺を防ぐという意味では桝本先生の話をぜひ聞いてみたいと思う。

（委員）

昨年度の公演は感銘を受けた。講師ははっきりと言わなかったが、おそらく学校に対する不信感はあったのではないかと思う。当事者でないと分からないことを伝えてもらったのはとても意義があったと思う。今年度の講師案については桝本先生の「適応感」について、特に興味があり聞いてみたい。高橋先生だと「生きづらさへの全人的支援」の内容に興味がある。

（委員）

長期休業明けの児童・学生の自殺率上昇について先ほどから挙がっているが、学校の教員のストレスケアも重要で、特に担任は子ども・保護者に向き合うことが多く、ストレスが多く溜まっていると思う。現場の教員も上司や様々なスタッフと連携を取りながら対応をしているが、その悩みや負荷が子どもに対する素っ気ない態度や深く関われないという状況に陥っているのではないかと思う。子どもを取り巻く環境には学校だけでなく地域もあるが、その連携やどう関わっていくべきか聞きたい。

（委員）

　昨年度の講演会について特に印象に残ったのは、自殺を救えなかった友人・家族など周りの方たちについての内容。学校教育という立場から考えると、自死を防ぐために周りの者がいかに気づいて救えるかというのが必要になってくる。気づいたことを共有する時間いわゆるゆとりや、風通しの良い職場も大事と考える。桝本先生が講師であるなら、気づきの部分についてご講演いただければと思う。また高橋先生については、自殺予防教育について多くの経歴をお持ちのようなのでぜひ聞いてみたい。

（委員）

　ハローワークの立場だと、失業による最終的な自死が光市は多いことに注目したい。窓口でも失業の手続き後に再就職先を紹介することがあるが、退職理由を聞くと「人間関係がうまくいかない」というケースがよくある。また、今後の経済情勢によって解雇をせざるを得ない状況が増えることも考えられ、雇われる側は常に失業による不安が付きまとうかもしれない。そのような方たちを支援する立場として、社会での適応についてと、援助をする側の姿勢について興味深く聞いてみたい。

（委員）

　商工会議所は経営者・事業者の集まりの団体になるため、指導をすることが多

い。経営問題に関する相談が多いが、数年に１度は金策に困って自殺をされる方が、後に聞く話になるがおられる。このとき困るのは残された方だと思うので、高橋先生の遺族ケアに関する講演が聞けると思われるため聞いてみたい。

（委員）

学校運営協議会に参加している関係で、児童生徒と会う機会が多々ある。未来の光市を担うのは小中学生などの子どもたちではないだろうか。自殺のない光市であってほしいと思う。高齢者の自殺も光市ではあるようだが、独居宅への３カ月ごとの見守りを行い報告を受けるが、病気になって少し弱って自宅に引きこもりがちになる、というケースがあるが、その方たちは心に不安があるのではないか。講師がどちらであっても高齢者の話も入れてほしい。

（委員）

障害関係で今一番の問題は、親との死別後について親も子どもも心配し精神的に不安定になるというもの。障害については親が子どもをみるケースが多いが、親は「子どもは大丈夫だろうか」と考え、子どもは「自分で思うようにできない」と葛藤を抱くこともある。メンタルヘルスに関する講演がよいと思う。

（委員）

光市は認知症高齢者の行方不明事案が多いが、早期に見つかっている。自殺に関しては「島田の橋で自殺を図ろうとしている人がいる」という通報を何件か受

け緊急対応した事案もある。どちらにも共通しているのは声かけであり、声をかけてくれる町であると思う。もっと広く市民の方に講演会を聞いてもらえれば、より良い体制が作れるのではと思う。

（委員）

消防は何かあれば積極的に協力参加する。参考までに、令和 4 年度の自殺行為に関する救急搬送について報告すると、救急車出動件数 2,851 件中、自傷行為は 15 件（0.5%）であり、実際に病院へ搬送したのは 12 人、残りは搬送拒否及び明らかな死亡であった。救急隊員は緊迫性のある現場で自殺行為者を搬送することしかできず、その後の心のケアは全くできてないという実状はある。重症度が低いと精神科病院への搬送も難しく、かかりつけ病院が選ばれることがほとんどである。家族に対する説明。これが一番大事で、家族が通報することが多いが、動揺する家族への言葉かけに配慮している。

（委員）

保健所では『心の健康相談』を奇数月に精神科医師との面談（無料）ができ、随時予約も受け付け中。新型コロナウイルス感染症の蔓延を経験したことで、心の健康の重要性を感じている。疫学調査で判明してきたが、コロナが原因での失業、一家離散、風評被害によって転職や転居を余儀なくされた、などが数多くある。行動自粛によってコミュニケーションも減り、地域内での孤立も見られる。

またテレビでは芸能人の自殺報道も多く、心配している。

講演については社会的背景を踏まえた内容が聞けたらと思う。

（議長）

自死報道については、場所・方法を明かさないというのがルールだが、それが守られていないところもある。周知されていない可能性もあるだろうし、視聴率を優先して報道してしまうのもあるかもしれない。そのような現状がある点からも、ゲートキーパーとして私たちが活動しないといけない。

（議長）

議事はすべて終了だがせっかくの機会なので、ここで各団体での活動や現状について報告いただきたい。まず医師会について報告すると、このような協議会での会議内容等は理事会や月例会にて現状や取組みを報告するようになっている。そのときには皆意識しているが、時間が経つと意識が薄れるため、今後の取り組みとしては２～３か月の間隔で再度啓発し、相談を受けた際にはすぐに精神科受診を勧めるのではなく、かかりつけ医としてしっかりと話を聞くように伝えたい。

（委員）

コロナ対策として入院患者へは面会制限があり、家族と会えない患者さんばかりとなっている。病気を抱え鬱々されている方もおられるため、近くまで行って

顔だけでも見えるような配慮工夫をしてきた。

　職員に関するメンタルヘルスでは、自殺企図者への対応や患者さんの看取りなど、対人援助をする職員への負担がかかることも多い。職場環境改善していきたい。

　救急外来では虐待が疑われるケースもあり、通報の必要性があると思うので講習会を実施している。

（委員）

　学校で出会えるときの会話も大事だが、インターネットを介して連絡も取れるようにしている。担任だけに負担がかかるのではなく、様々な職員たちで支えていきたい。就職してからストレスを抱えたり躓いたりすることもあると思うが、子どもたちの未来のために教育の現場から支えていきたい。

（委員）

　光市教育委員会の取り組みとして、スクールカウンセラーへ悩んでいる子どもと親を繋ぐようにし、学校とも情報共有している。教員もゲートキーパー研修を受講することで自殺に対する意識を高めていっている。

　地域の目が学校では気づけない視点を持つことが多くあるため、運営協議会などで話を聞きとても参考になっている。行政の仕組みと上手く連携しながら子どもたちの変化に気づけるようにしたい。

（議長）

市内での自死は 0 ではない。いつか 0 が続く光市となり、この協議会が解散するぐらいになればよいと思う。

（７）福祉保健部長あいさつ（省略）

（８）閉会